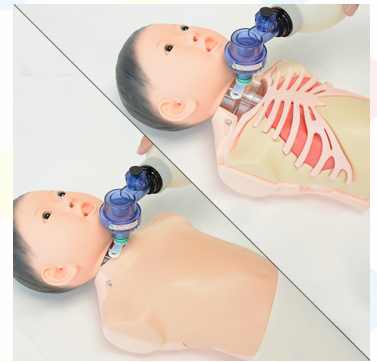
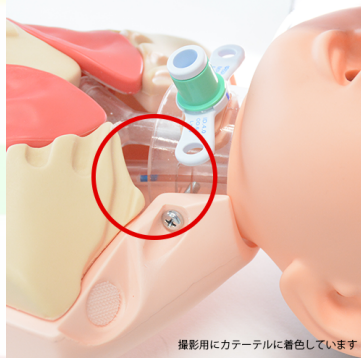


MW77 医療的ケア児モデル“JANA”

指導：久留米大学医学部看護学科 渡邊理恵
実用新案登録 第3245319号(共同出願)

小児(乳児)に対する医療的ケアやBLSをトレーニングし、
医療的ケア児への実践的な支援を学びます

JANA



実習項目

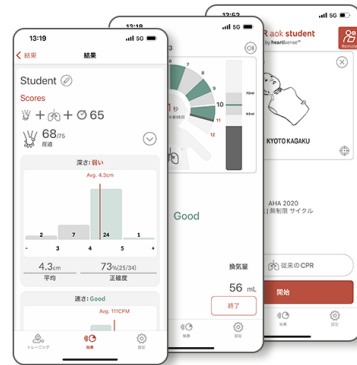
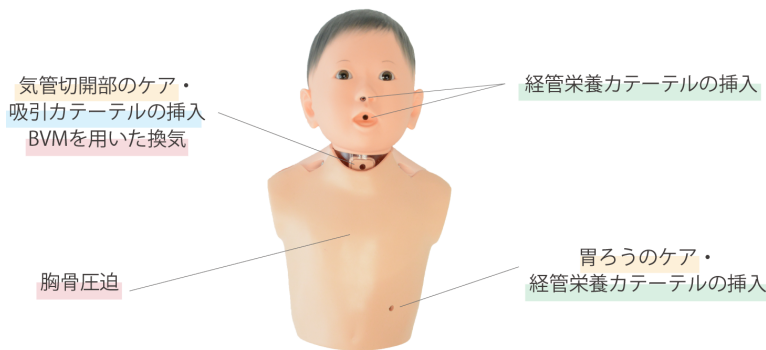
- 気管切開部のケア
- 胃ろうケア、経管栄養/吸引カテーテルの挿入
- 胸骨圧迫/BVMによる換気
- BLS評価
- 抱っこの練習

構成

乳児半身モデル本体1体、器具セット1組、
(気管切開チューブ、胃瘻チューブ、栄養カテーテル)
潤滑剤、専用キャリーケース、活用事例案内書、乾電池、
取扱説明書(評価アプリ用QRコード含む)



- 製品は改良を重ねておりますので、仕様・外観など予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。
- このパンフレットに掲載の文章・情報・写真については、許可なく無断転載・転用・コピーなどは固くお断りいたします。



I. 作成の経過と目的

現状の課題抽出

- ① 体内が見えないことで、気管支とカニューレの位置、指示された長さを挿入した場合の吸引チューブの先端の位置がわからず、不安が大きい。
- ② 気管切開の管理やケアを練習するものが無く、実際の子どもで行なわなくてはならず、不安と恐怖を感じている。
- ③ 繰り返し練習しながら、方法について確認できる教材がない。
- ④ 多職種間で気管切開の技術についての課題を共有する媒体がなく連携が難しい。

課題解決のための教材の開発

- ① 軽量で携帯性が高く繰り返し家族間・多職種間で練習ができる。
- ② 子ども本人ではなく、このモデル人形にて練習を繰り返し行うことができる。
- ③ カニューレ部を可視化することで管理やケアの根拠の理解を促すことができる。
- ④ 抱っこ・固定ひもの交換・入浴時の注意点など子育てとしてのケアの練習ができる。

本教材の活用により期待する成果

- 1 わかりやすさが「できそう」という自信となり家族や地域の支援者が医療的ケア児を受け入れ、退院を促進できる。
- 2 地域で気管切開の管理・ケアに関して理解したり、技術を修得した多くの職種の人材が増える。
- 3 医療・保育・療育・教育・介護など多職種間でモデル人形を介した課題の共有ができ継続した連携が生まれる。
- 4 地域で気管切開の管理ができることで、子どもの社会参加が可能となり、社会的孤立を回避できる。
- 5 親の離職防止が定着し、気管切開があっても、地域で家族の一員として成長しながら暮らしていける。

II. 製作者のコメント

この教材は在宅療養児の父親である「モハメド・エルフェキ」氏が、可視化された練習用教材を日用品を工夫して作成したことがきっかけとなり、さらに製作者がこれまで携わった多くの立場の方々の意見を集約してこの形態と機能となったものです。2021年6月「医療的ケア児とその家族への支援法案」が制定され、この目的を具体的に展開するためには、地域社会全体が医療的ケア児について理解し、関わり方や、提供すべき医療的技術を体験的に学び、実践的な支援を可能とする必要があります。つまり、実践可能な人材の育成が重要な課題と言えます。この教材を活用することで、多職種が手を携えて学び合う仲間としての質の高い連携が生まれることも期待しています。是非本教材を活用していただき、ご意見やご感想をいただけましたら幸甚でございます。

渡邊理恵

【教材としての感想・お問い合わせ】

久留米大学医学部看護学科 在宅看護学 渡邊理恵（わたなべりえ）

Mail : Watanabe_rie@kurume-u.ac.jp

【商品の取り扱いに関するお問い合わせ】

株式会社 京都科学 西日本営業部 075-605-2510

東日本営業部 03-3817-8071

Mail : rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp